

BS 世界のドキュメンタリー

『地球温暖化はウソ？ 世論動かす“プロ”の暗躍』

文字起こし

基礎から論考する地球温暖化

— 科学・歴史・懐疑論 —

<https://globalwarmingronko.wordpress.com/>

(マイロン・エベル)

あなたが質問者？

(インタビュアー)

気候変動に関するドキュメンタリーの取材です

(マイロン・エベル)

単純な科学ですよ

CO<sub>2</sub>の増加は地球を緑化する

悪いことですか？



(インタビュアー)

むしろ良いことだと？

(マイロン・エベル)

その通りです

(ナレーター)

科学を信じられない・・・そんな世界を想像してください。

これから紹介するのは、ある種の専門家たちです。

彼らは地球温暖化への疑念を植え付けるプロ。

その背後には、巨大石油会社の存在がありました。

彼らの活動によって、世界は変わってしまったのです。

**地球温暖化はウソ？**  
世論動かす“プロ”の暗躍

THE CAMPAIGN AGAINST THE CLIMATE



(ナレーター)

NASA の科学者が世界に警鐘を鳴らした、アメリカ議会の公聴会

さて、これは何年の発言でしょうか。当ててみてください。

(映像)

ハンセン博士、ご発言を

(ジェームズ・ハンセン)

温室効果の研究結果について

ご報告します

地球温暖化は進行しており

温室効果が原因になっているのはほぼ確実です

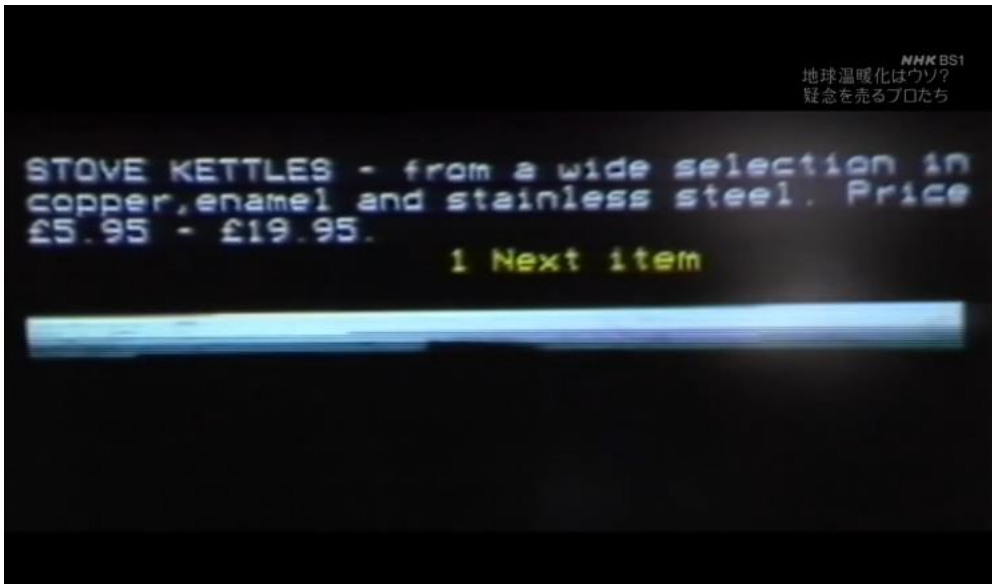


(ナレーター)

答えは、1988年。当時の電話はこんな形で、インターネットはこんな時代でした。

このとき確かに、世界は気候変動の深刻さに気付いたので  
す。





(映像) 温室効果は地球上の全生命にとって  
壊滅的な打撃となりえます  
主な原因は人間活動であり  
このままでは手遅れになります



(映像)  
最終的には極地の氷冠が  
溶けると予測  
山火事が発生し・・・

食料をめぐる暴動が発生



(映像)

複数の国が存続の危機に

直面します







(ナレーター)

1988年には、国連の専門機関、IPCC が設立され、各国の科学者たちが危機感を共有しました。



(ナレーター)

各国の首脳たちは

(ブッシュ)

温室効果に対し

ホワイトハウスは全力で闘う



(サッチャー)

科学的な根拠があり

すでに被害も出ています

行動を起こすべきです



(ナレーター)

30年以上前に、世界は温暖化対策に向けて動き出すかのように見えました。

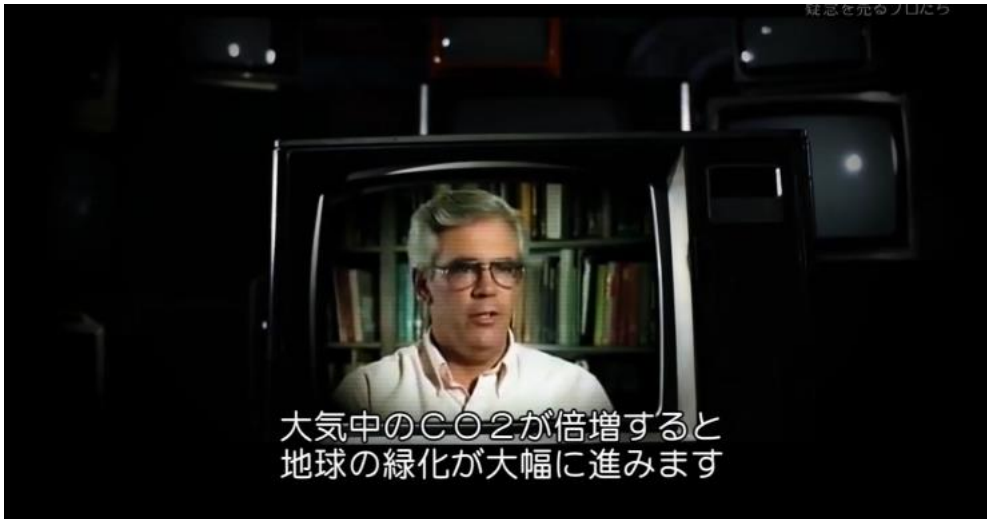
しかし、そうはなりませんでした。



(映像)

大気中のCO<sub>2</sub>が増えると

地球の緑化が大幅に進みます



(ナレーター)

ハンセンが公聴会で行った証言への批判論が出てきたので  
す

(フレッド・シンガー)

“温暖化”は推論の域を出ず科学的な根拠が欠けています



(ナレーター)

次々と懐疑派のコメンテーターが登場

(映像)

「どうも うさんくさいぞ」と

感じたあなた その通りです

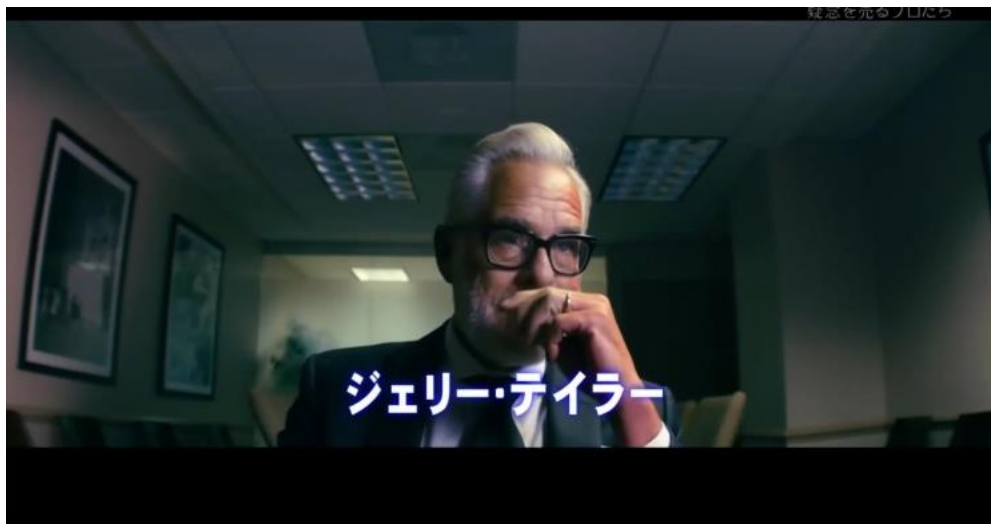


(ナレーター)

この男もその一人。

(ジェリー・テイラー)

私は長年、様々なメディアで気候変動を否定する議論を展開していました。



(ジェリー・テイラー)

温室効果ガスが増えると  
経済に好影響も

(インタビュアー)

なぜ？

(ジェリー・テイラー)

耕作できる期間が延びる



(ジェリー・テイラー)

私は口が達者で、頭の回転が速く、テレビ映りが良くて、事前準備も欠かしません。

(ナレーター)

ハンセンの発言から程なく、テイラーは、シンクタンク、ケイトー研究所に雇われました。

(ジェリー・テイラー)

私はケイトー研究所の  
天然資源部門の責任者です



(ジェリー・テイラー)

ケイトーが私を雇ったのは、温暖化に対する世論を変えるためでした

(ジェリー・テイラー)

異常気象が起きるとしても  
その確率は不明です



(ジェリー・テイラー)

温暖化論の根拠となる科学に疑いを持たせること、それが

すべてでした。

(ジェリー・テイラー)

NASAのハンセン氏によれば

確率は7～20%だが

0.3%と言う学者もいます

(ジェリー・テイラー)

科学的根拠を崩せるかどうかで、勝負は決まるのです。

(ナレーター)

テイラーが喉を潤す間に、マーク・モラノを紹介しましょう。



(マーク・モラノ)

君を見て話す？



カメラ目線がいい？

(マーク・モラノ)

私の仕事は、温暖化をめぐる動きを把握し、最新の情報を伝えること。

(マーク・モラノ)

衛星のデータによれば

1998年以降 温暖化傾向は見られず

むしろ寒冷化しています



(インタビュアー)

以前はセールスマンだったそうですね。

(マーク・モラノ)

ええ、昔ね。訪問販売をしていたんです。おかげで話術を鍛

えられました。

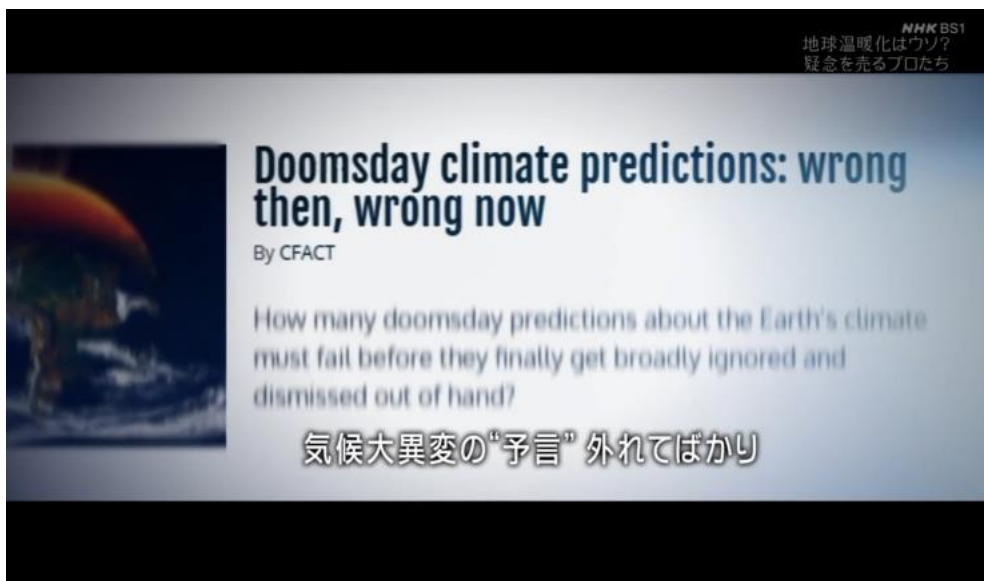
15秒や20秒でお客様の心を動かすには、短くて効果的なフレーズと話の組み立てが重要です。その経験が、いまの仕事に活かしています。

(ナレーター)

モラノは「CFACT」、「建設的な明日のための委員会」という団体で広報部長を務めています。

気候変動は大した問題ではない、と世間に訴えている組織です。

彼のやり方とは・・・



(マーク・モラノ)

テレビでは、相手の発言が馬鹿げていて、防戦一方に見えるように追い込みます。

(マーク・モラノ)

「温暖化で天候が悪化」？

悪天候なんて常に存在していた



(マーク・モラノ)

次にファクト、検証します。

(マーク・モラノ)

アメリカは過去最長期間

大型ハリケーンの直撃を逃れている

1900年以降ずっとです

科学雑誌「ネイチャー」の

最新論文によれば・・・



(マーク・モラノ)

こうやって、ウン!

(マーク・モラノ)

CO<sub>2</sub> レベル上昇の説明など

時間のムダだ!

(マーク・モラノ)

相手を叩き潰すんです。

(インタビュアー)

あなたは科学者ですか?

(マーク・モラノ)

いえ、ただ、科学者を演じることがあります。

(ジェリー・テイラー)

人は合理的な理由に基づいて、自分の意見を決めるわけではありません。

まず、感情的なイデオロギーによって、どの立場を取りたいかが決まります。そして、それを裏付けてくれる理由を探して、自分を正当化するんです。



(ナレーター)

そこでテイラーが取った戦術は、こうです。

(ジェリー・テイラー)

地球温暖化についての判断を迷っている人たちに、こう吹き込むんです。

大騒ぎする必要はありません。環境保護派の、いつもの脅しです。

彼らは以前、人口爆発で人類が減びると言ったが、そんなこ

とは起きなかった。

資源が枯渇し、食料が尽きて、全人類が飢餓に陥ると言った  
が、それも起きなかった。

温暖化も同じことです。

彼らお得意の、資本主義を規制しなければ、人類が減びる、  
という脅しなんです、ってね。

(映像)

目には見えないけれどー

生物に不可欠なもの

私たちが吐き出し 植物が吸収する

二酸化炭素です







(映像)

一部の政治家はこれを  
汚染物質と見なそうとしています  
“汚染”ではない  
“命”です

(ナレーター)

これはシンクタンク、CEIのコマーシャルです。



(ナレーター)

そしてこちらが、マイロン・エベル。



(マイロン・エベル)

地球の緑化が進んでいることは確かです。それが悪いこと  
なんですか？

(ナレーター)

C E I、企業競争研究所は、アメリカの保守系シンクタンク  
で、エベルはエネルギー・気候部門の責任者です。

トランプ政権に助言したこともあります。

気候変動については、こう主張しています。

(マイロン・エベル)

温暖化問題を初めて政策に取り入れたのはスウェーデンで、

1980年代初めのことです。政府にとっては、税収を増やす口実でした。

北欧の福祉国家では、支出が膨らむ一方で、財源の確保が急務でしたから。

(ナレーター)

これまでに紹介した地球温暖化の懐疑論者たちは皆、利益団体やシンクタンクに所属しています。

(ジェリー・テイラー)

シンクタンクは思想の武器倉庫のようなものです。

特定の思想を知識で武装して、政策にまとめ、議会やメディアに展開していくんです。ケイトー研究所は中道右派のシンクタンクとしてはアメリカ最大規模で、絶大な影響力があります。



(ナレーター)

テイラーはその、絶大な影響力を利用して地球温暖化懐疑論を広めました。

その具体的な業務とは・・・



(ジェリー・テイラー)

まず、電話に応えることです。

ジャーナリストからの問い合わせのね。

彼らは専門外の問題について記事を書くとき、専門家に頼ろうとします。

気候変動の問題の場合、その専門家は私。

私が伝えた見解が、さまざまな右派の著名人、いわゆる有識者やジャーナリスト、政治家などを介して広がっていきます。

自分がうまくやれているかどうかは、その手ごたえでわかります。

(ナレーター)

テイラーが主張の根拠にしていたのが、同僚の科学者パトリック・マイケルズの研究でした。

(パトリック・マイケルズ)

20世紀の温暖化の主な原因が  
二酸化炭素だとの議論は  
基本的な数字を見逃している



(ナレーター)

懐疑論を拡散する専門家たちを支える科学者のグループもいます。その代表格、フレッド・シンガーは、いわゆるライブチヒ宣言を取りまとめました。

大勢の科学者が署名して、地球温暖化に対して疑念を表明したという文書です。

(フレッド・シンガー)

100人の科学者が

意見書に署名しました

地球温暖化は不確かな問題で一

性急に対応すべきではないと

(ナレーター)

科学者たちがNASAや国連で地球温暖化に警鐘を鳴らす

一方で、多くの専門家たちが正反対の主張をするという事

態に。

なぜこんなことになったのでしょうか。







(ナレーター)

ハーバード大学のナオミ・オレスケスは、この点に切り込み  
ました。



(ナオミ・オレスケス)

温暖化が科学的論争の的になっているとの記事を見ました。  
でも私が知る範囲で、温暖化に否定的な科学者は一人もいません。

不思議に思って調べることにしたんです。

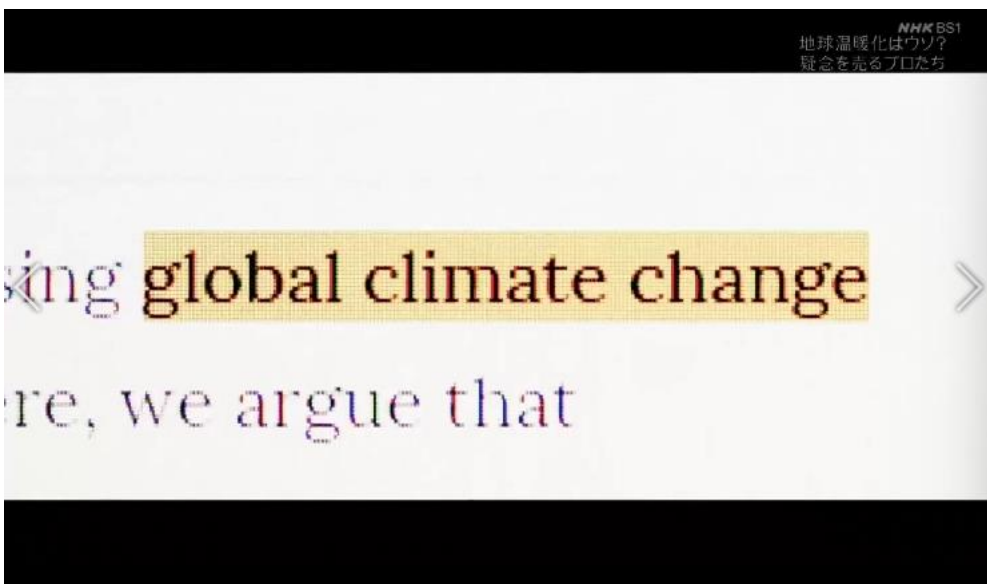
すでに IPCC が温暖化の主原因は温室効果ガスだという  
見解を出していたので、こんな問いを設定しました。

「この見解に同意しない査読付きの論文はいくつあるのか。」



(ナレーター)

オレスケスは「地球規模の気候変動」(註: Global climate change) というワードが使われている科学論文を検索、937本の論文がヒットしたため、そのすべてを読みました。



(ナオミ・オレスケス)

その結果は、ゼロ。査読付きの論文の中には人間活動が原因の気候変動に疑問を呈するものはなかったんです。

調査結果を基に、2004年に論文を発表しました。

この論文で人生が変わりました。

発表直後から、いやがらせメールに脅迫電話、大学にも苦情が寄せられて、共産主義者、スターリン主義者とののしられました。

(ナレーター)

なぜ、これほど凄まじい攻撃に晒されたのか。

その理由がわかったのは、ドイツでの会議に出席したときでした。

(ナオミ・オレスケス)

会議の後、他の出席者とビールを飲みながらおしゃべりをしていて、自分の身に起きたことを話しました。

その席には、NASAのエリック・コンウェイもいました。私を攻撃してきた人の名前を出すと、エリックが言ったんです。

そいつはオゾンホールの時にもローランド博士を攻撃していた。

私は知らなかったんですが、かつてオゾンホールを研究していた科学者たちも、ひどい攻撃に晒されたんだそうです。

「オゾンホールなんて存在しない、インチキだ、この科学者どもは詐欺師だ、共産主義者だ」と、私に浴びせたのと同じ言葉を、ノーベル賞を受賞した偉大な科学者にも浴びせていたんです。

エリックは、いろいろな資料を一揃い、私に郵送してくれました。

「オゾンホール」という言葉を「気候変動」に変え、「ローランド」を「オレスケス」に変えれば、私に送られたものと同じような内容でした。



(ナレーター)

1998年の春、アメリカの石油業界団体、アメリカ石油協会が、ある会合を開きました。

エクソンなど石油会社の代表も出席、エクソンの当時のCEOは会社の規模についてこう語っています。



(リー・レイモンド)

わが社は世界最大の民間企業です

1日あたり 800 万バレルを販売

3日で 10 億ガロンです



(ナレーター)

最大手の石油会社が集まったこの会合、そこには、あのマイロン・エベルも出席していました。

(マイロン・エベル)

我々には、石油業界にはないノウハウがありますからね。それを活かして業界の取り組みをサポートしました。



(ナレーター)

当時の書類には、会合の目的が明記されています。

「我々にとっての勝利とは、気候科学が不確実なものだという認識が、一般市民に広く浸透することである」と。

石油業界の狙いは、気候変動の科学的根拠に対する疑念を植え付けること。

そのために、科学者とは別の専門性を持つプロに頼ったのです。



Victory Will Be Achieved When

- Average citizens "understand" (recognize) uncertainties in climate science; recognition of uncertainties becomes part of the "conventional wisdom"

(マイロン・エベル)

私はエネルギー問題の専門家でも、気候問題の専門家でもありません。でも、政策を実現させることに関しては一定の実績がありますから、そこを見込まれたのでしょう。

(ナレーター)

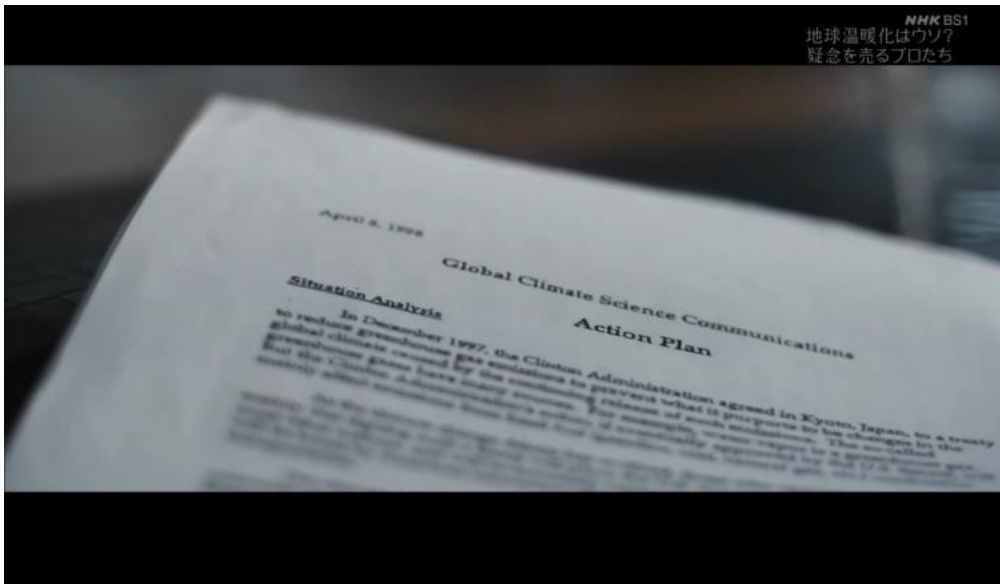
この会合で練られた戦略のメモが、その後リークされ、石油業界の具体的な計画が明らかになっています。

その大きな柱は、メディア戦略です。

影響力を増すために科学者を雇って、専門家として訓練することなどが、書かれています。

ジャーナリストへのアプローチも計画されました。

名指しで候補となったのが、ジョン・ストッセルです。



(ジョン・ストッセル)

今日のテーマは「頭を冷やせ」

温暖化騒ぎへの私の結論です

頭を冷やしましょう



(ナレーター)

石油業界の戦略メモでは、教育機関への働きかけも強調されています。

ハーバード大学をはじめ、多くの大学は、民間企業から資金を集めています。それ自体には何ら問題はありません。



(ナレーター)

研究員のジェフリー・スプランは2017年、ある映画の上映会に参加しました。



(ジェフリー・スプラン)

上映会は公共政策大学院で開かれました。

映画のメッセージはこうでした。

「私たちは当面、化石燃料に頼ることになる。再生可能エネルギーの実現は遠く、技術的にも当てにならない。」

化石燃料の必要性を訴えていましたが、とても正確とは言えない中身でした。

映画に出てきた大学教授たちは、例外なく、石油やガスの業界と深いつながりのある人たちでした。

コンサルタント契約を結んでいたたり、研究資金の援助を受けたり、そうした会社の役員をしている教授もいました。

ロイヤル・ダッチシェルの子会社がスポンサー、監督は石油ガス関係の会社の副社長もしていて、その会社にはシェル側から 30 万ドルが支払われていました。



(字幕)

ハーバード大学は 取材に対しコメントを拒否した

ハーバード大学は取材に対しコメントを拒否した

(ナレーター)

こうした出来事をきっかけに、スプランは石油産業と大学との関係を論文にまとめました。

調査の結果、以下の事実が明らかになりました。

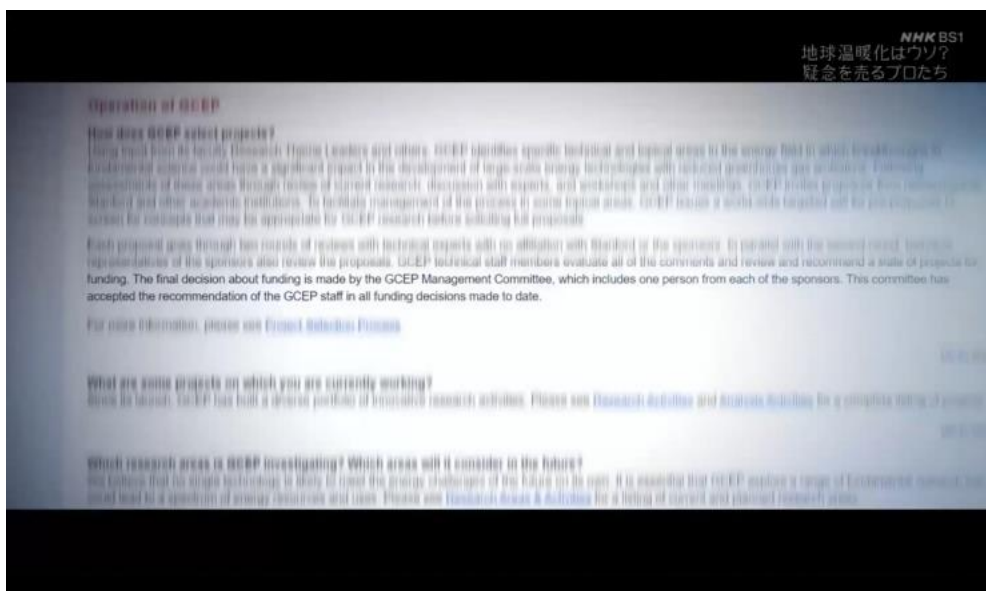
ハーバード大学は複数の石油会社から資金を受領。スタンフォード大学のエネルギー研究部門も同様です。

STANFORD

(ナレーター)

大学側は、研究内容にスポンサーの介入はないと主張し、ウェブサイトでも、学問の独立を強調しています。しかし、誰が、どの研究に資金を割り当てるのかについては、こう記されています。

資金に関する最終決定は運営委員会が行う。委員会には各スポンサーから代表1名が参加する。



(ナレーター)

発言力を持つ最大のスポンサーはエクソンモービルでした。60年代に学生運動の先駆けとなったカリフォルニア大学バークレー校、イギリスの石油会社bpがエネルギー研究に投資していて、研究内容にも影響があると見られます。





(ナレーター)

石油会社側は、大学への資金提供について、グリーンテクノロジーの促進や温暖化問題の解決に貢献するためだと述べています。



(ジェフリー・スプラン)

気候問題を解決するはずの科学者や研究機関が、その研究で不利益を被る業界の資金に依存している。明らかな利益



相反です。

(ナレーター)

資金提供の目的は、研究者や学生への影響力の強化だと、スプランは見えています。

(ジェフリー・スプラン)

マニュアル通りの戦略です。



(ナレーター)

確かに、石油業界の戦略メモには、こう書かれていました。気候変動についての研究は、不確かだと教師や学生に吹き込めば、京都議定書のような措置を阻止できる、と。

(ジェフリー・スプラン)

医学研究では、こうした利益相反があれば、その情報を開示

するというルールが確立しています。

(ナレーター)

かつては多くの大学が、たばこ業界の支援を受け入れていましたが、2001年、ハーバードなど31の大学が、医学研究では寄付を受けないと決めました。

(ジェフリー・スプラン)

エネルギー分野では違います。

(字幕)

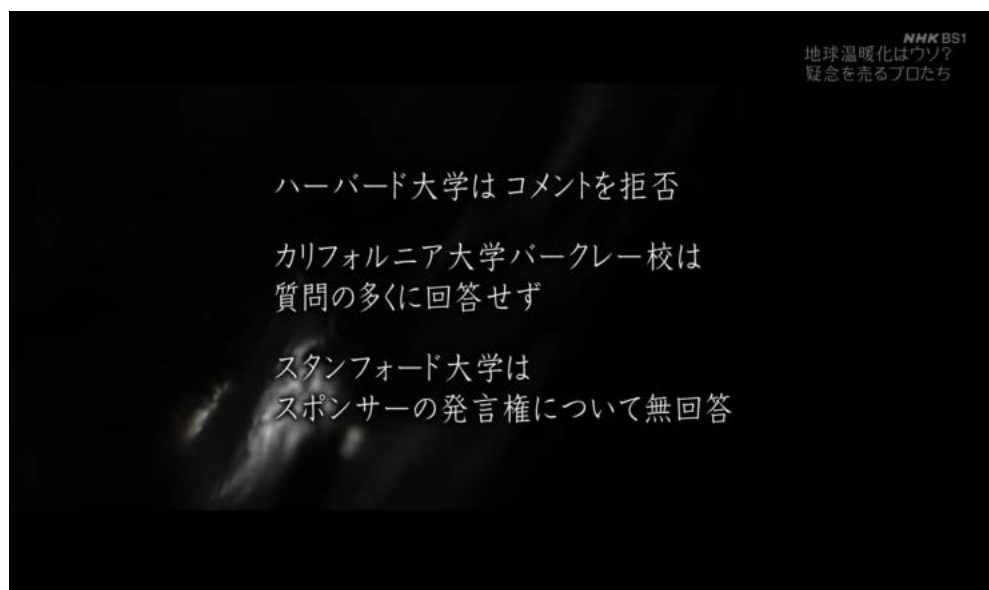
ハーバード大学はコメントを拒否

カリフォルニア大学バークレー校では

質問の多くに回答せず

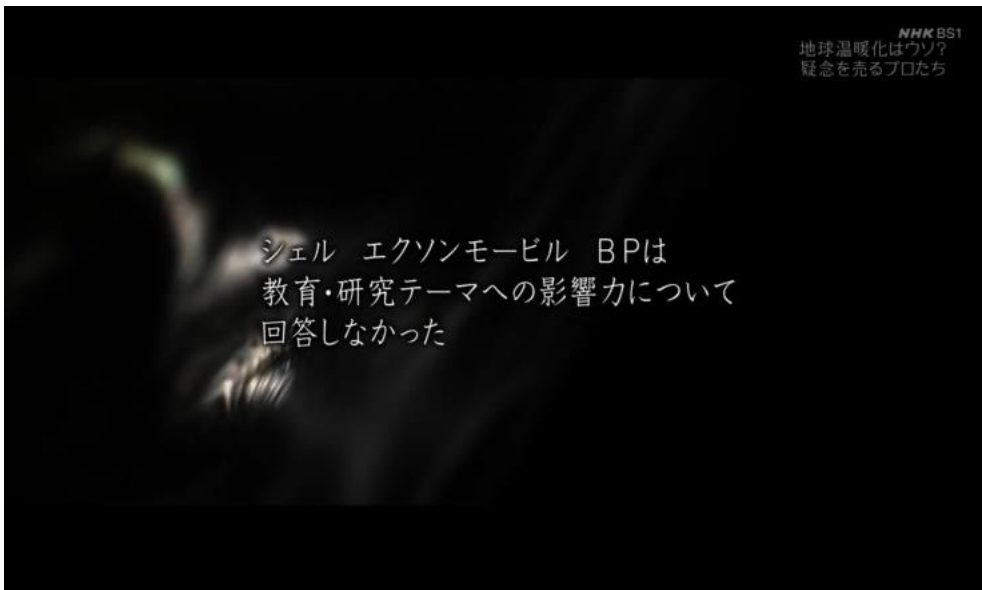
スタンフォード大学は

スポンサーの発言権について無回答



(字幕)

シェル エクソンモービル BPは  
教育・研究テーマへの影響力について  
回答しなかった



(ナレーター)

ナオミ・オレスケスは、集めた資料を基に調査を開始。  
アメリカ石油業界の戦略文書を手に入れます。

(ナオミ・オレスケス)

衝撃的でした。  
見えなかったものが見えてきたんです。

(ナレーター)

彼女が温暖化に異議を唱えて科学者を攻撃するコメンテーター

ターたちを追いました。

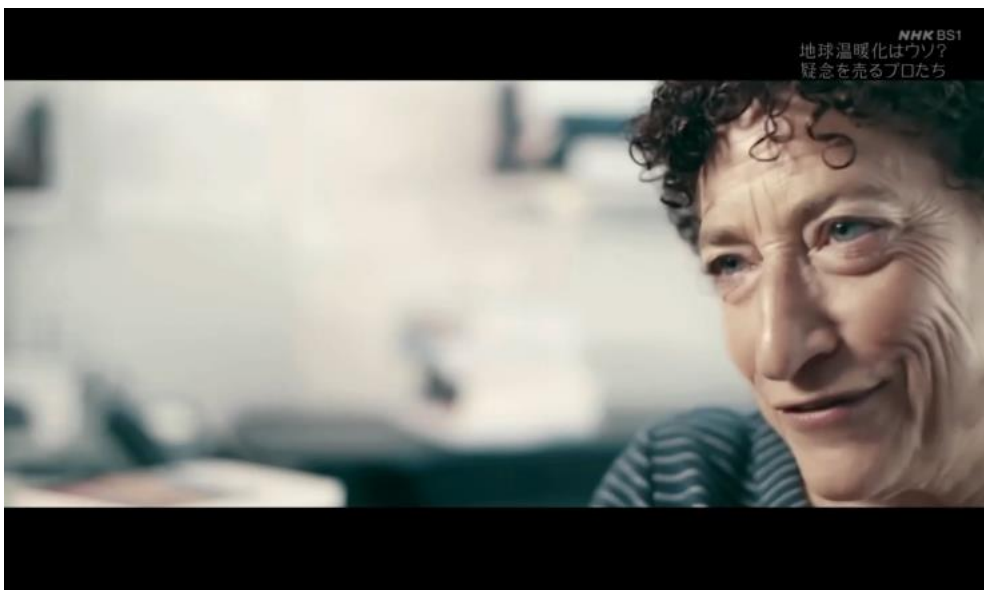
すると、なぜ、彼らの世論操作が効果的なのが、わかってきました。

(ナオミ・オレスケス)

彼らは、本物の科学者と比べて、はるかにコミュニケーションに長けています。

だいたい科学者って、こういっちゃなんですけど、内向きのタイプですよ。

基本的に、コミュニケーションが苦手な科学者たちに対して、相手はその道のプロ、宣伝のプロなんです。





(ジェリー・テイラー)

コミュニケーションが下手な相手なら、ゴミみたいな主張でも勝てるんです。

(ナオミ・オレスケス)

私を攻撃しているのは、一体何者なんだろう。なぜ、こんなひどいことを言うのだろう。

調査を通じて、それを突き止め、本にまとめました。



(ナレーター)

オレスケスは、温暖化の懐疑派を、疑念を売る商人たちと呼びました。

誹謗中傷は止まりませんでした。

(ナオミ・オレスケス)

彼らは、どうすれば私の信用を損ない、ダメージを与えられるかをメールで話し合い、連携して動いていました。

共産主義者、スターリン主義者というレッテルを貼られ、攻撃は何年も続きました。

(ナオミ・オレスケス)

彼らは恐れているんです。政府の規制を許せば、それが何であれ、経済の統制につながる。そして一度そうなったら、あとはソビエトのような独裁国家にまっしぐらだと。



(ジェリー・テイラー)

右派にとって、温暖化を認めることは、自由市場を基礎とする資本主義の否定。つまり、左派の完全勝利を意味するんです。

(マーク・モラノ)

温暖化、なんて言っている連中は、実は、統制経済国家を作ろうとしているんです。

そのために、環境問題で恐怖をあおるんです。これがいわゆる、気候変動問題の裏にある真実です。実は、科学もホッキョクグマも気温もどうだっていいんです。こいつはチャンスだ、大衆の不安をあおって、俺たちの政策を実現しよう、というわけです。

本当です。証拠だってある。これが結論。





(ナレーター)

2000年代に入ったある日、ジェリー・テイラーの人生を変える出来事が起きました。

(ジェリー・テイラー)

温暖化論者のジョー・ロムと討論しました。





(ジェリー・テイラー)

テレビカメラを前に、私は言いました。

NASAのハンセンが地球温暖化を警告してから10年以上たった。ところが気温上昇の程度は、彼の予測の4分の1ほどだ。

この状況が続くと考えれば、気候変動はたいした問題ではない。

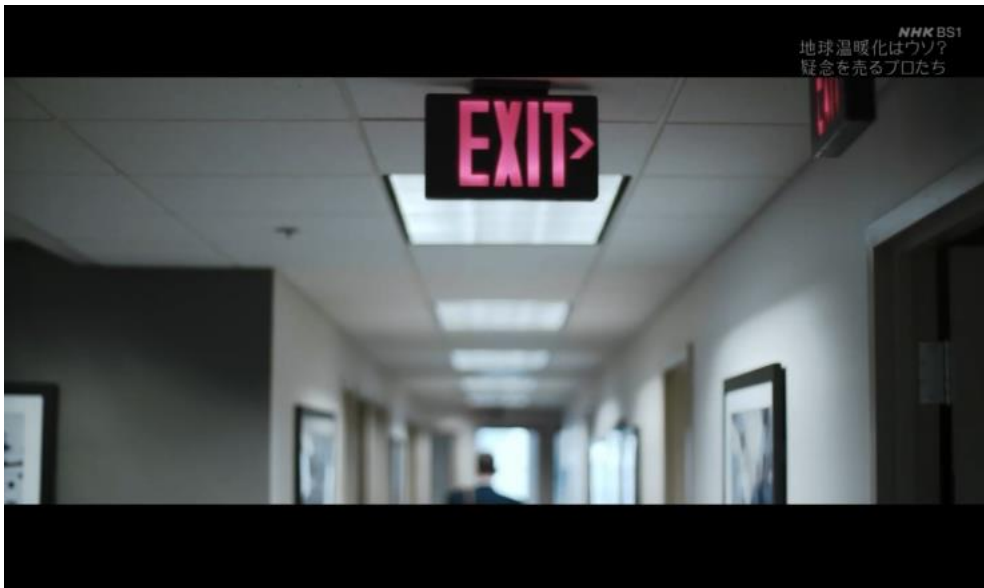
番組の後、休憩スペースで言われたんです。

「君はそもそもハンセンの報告を呼んだのか？それとも誰かが書いた筋書き通りに話しているだけなのか？」と。

「君が挙げたのはシナリオAの数字だが、ハンセンは同時にシナリオBとCも提示している。現在までの二酸化炭素排出の推移はシナリオBに最も近い。そして、気温上昇の値は、実際の数値とほぼ一致する。それを知らずにテレビで予測が外れたと主張するのはレベルが低すぎる」ってね。

そして言われました。「オフィスに戻ったら、ハンセンの報

告を読み直して、もし私の指摘が間違っていたら言ってくれ。いやなら好きにしろ。どうせもう君とは議論しない。テレビ討論は嫌いだ。」



(ジェリー・テイラー)

私は、ケイトー研究所に戻り、ハンセンの報告文書を手に入れました。

ジョー・ロムに、あいつを言い負かしてやったと思われるのがしゃくだから。

それが、よく読んでみたら、ジョーが言ったとおりだったんです。

私は同僚の科学者のところに行きました。

気候科学者  
パトリック・マイケルス

(ジェリー・テイラー)

科学者にいきさつを説明し、聞きました。

「君から教わったことを、何か見落としていたんだと思う。

いったい、何を見落としたんだろう。」

ところが、何も見落としていなかった。

やり取りの末、科学者が意図的に人々に誤解を与える説明を書き、それを私がテレビでしゃべっていたんだとわかりました。

それ以降の私は、自分が口にする科学的見解について、もう少し慎重に事実確認をするようになりました。



(ジェリー・テイラー)

いろいろ見つけました。悪意のない誤り、都合のいいデータだけを抽出していることもあった。立派な体裁の論文で、査読付きの科学雑誌に掲載されたと思い込んでいたのに、そうではなかったりとかね。

真面目に事実確認をするようになって初めて、それまで自分が実にいい加減な議論を語り続けていたことに気づきました。

(ナレーター)

パトリック・マイケルズは、テイラーの話を否定し、自分の見解には科学的裏付けがあり、ハンセンは誤っている。人々をミスリードしたことはないと主張。

ケイトー研究所にも見解を求めましたが、返答はありませんでした。



(ナレーター)

次は、お金の流れを見てみましょう。

石油業界の戦略メモから、さまざまな団体に膨大な資金が渡っていることがわかります。

## Global Climate Science Communications

### Action Plan

#### Project Goal

A majority of the American public, including industry leadership, recognizes that significant uncertainties exist in climate science, and therefore raises questions among those (e.g. Congress) who chart the future U.S. course on global climate change.

Progress will be measured toward the goal. A measurement of the public's perspective on climate science will be taken before the plan is launched, and the same

## National Direct Outreach Program

V. **Funding/Fund Allocation:** ...  
funding, and to allocate fun  
effectively.

(ナレーター)

その一つが、シーファクト (CFACT)、マーク・モラノ  
が所属しています。

(マーク・モラノ)

“何もしない勇気”を持つべきです

(インタビュアー)

業界からの資金提供は？

— 多少はね





(ナレーター)

シンクタンクのCEIにも。

(マイロン・エベル)

私たちは資金提供者を公表しませんが、提供者の方で公開していることもあります。

エクソンモービルはそのひとつですが、うち以外にもたくさんさんの組織に寄付をしていますね。



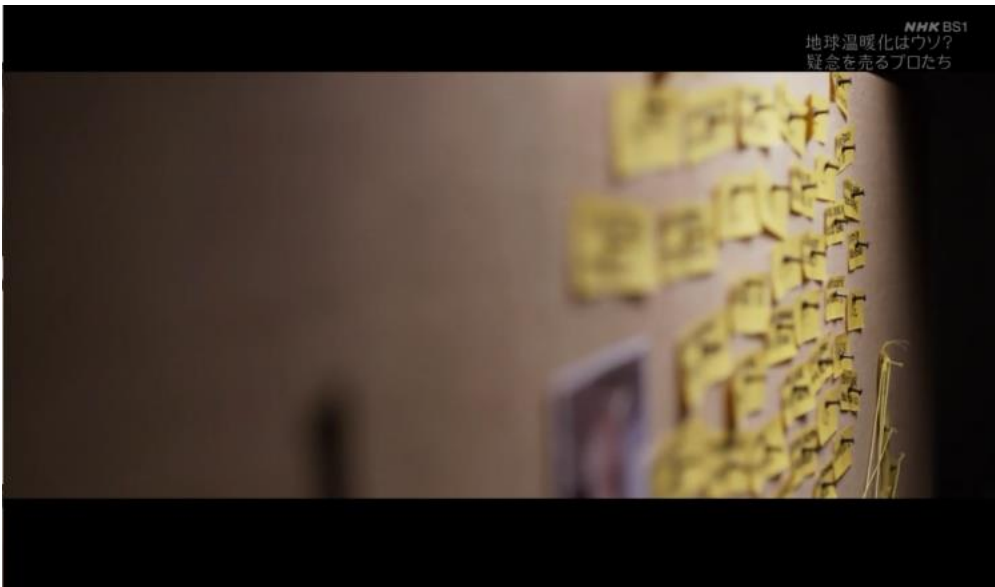
(ナレーター)

エクソンモービルの各種資料から、アメリカ石油協会の会合以降、8年間の資金提供先が判明しています。

少なくとも、1200万ドル、おそらくそれ以上の額が、地球温暖化に否定的な組織やシンクタンクに寄付されていました。

エクソンモービルだけではありません。

ある調査によると、他の石油会社や、保守派の富裕層からも温暖化否定論者たちに対して、数十億ドル規模の資金が寄付されていました。



(ナレーター)

石油業界から資金を得ながら、その影響を受けないことなど、可能でしょうか。

温暖化に懐疑的なコメンテーターのスティーブ・ミロイは、石油業界との関係について、こう述べています。



(インタビュアー)

石油業界と“寝ている”そうですね

(スティーブ・ミロイ)

違いますよ

正しいことをしたいだけです



(ナレーター)

シンクタンク、CEIのマイロン・エベルも、オイルマネー

の影響を否定します。

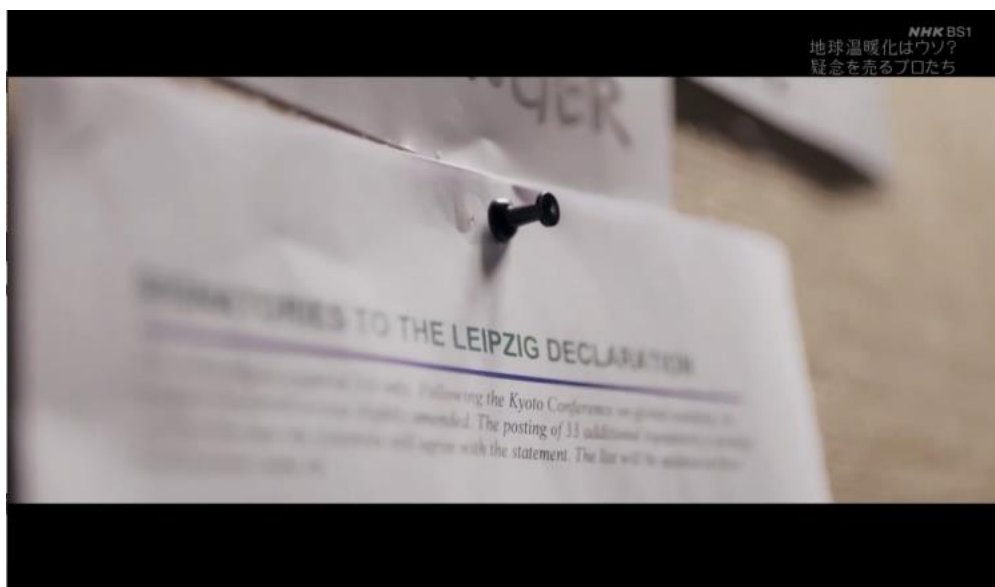
(マイロン・エベル)

私たちは組織の理念に基づき、事実や裏付けを重視して方向性を決めています。資金調達に動くのはその後です。

もちろん、もっと多く集めたいとは、いつも考えています。

(ナレーター)

そして科学者のフレッド・シンガー、私たちは、彼が中心となったライブチヒ宣言を 1997 年に調査していました。



(映像)

記載された人物の多くが

署名の事実を否定

Dear Mr. Hesselager!  
I dont know the Leipzig declaration  
and clinical diagnostics.  
Sincerely yours,

記載された人物の多くが  
署名の事実を否定

(インタビュアー)

署名した欧州の科学者 15 人は  
気候科学者ではないそうです

(フレッド・シンガー)

何を根拠に言っているのか・・・

(インタビュアー)

私たちは全員に取材し  
本人から回答を得ました

(フレッド・シンガー)

それで質問は？

(インタビュアー)

あなたは彼らを「気候科学者だ」と・・・



(フレッド・シンガー)

私はそう聞いていた

(ナレーター)

シンガーが立ち上げたプロジェクトも、エクソンモービルから寄付を受けていました。



(ジェリー・テイラー)

石油業界が科学者たちに資金援助をしていたおかげで、私  
たちも議論に必要な、もっともらしい科学的論拠が得られ  
たんです。





(ナレーター)

私たちは、パトリック・マイケルズなど、懐疑派の科学者に業界からの援助について取材をしようとしたが、同意を得られませんでした。

フレッド・シンガーの弁護士からも、回答はありませんでした。

スティーブ・ミロイは、インタビューを直前にキャンセルしました。

彼らの多くが、オイルマネーの影響を受けていないと公言していました。



(ナレーター)

科学に懐疑論をぶつける戦略、それには前例がありました。

(映像)

ニコチンに中毒性は ありません



(映像)

ニコチンの影響が 中毒の定義に該当しないことは明らか

です



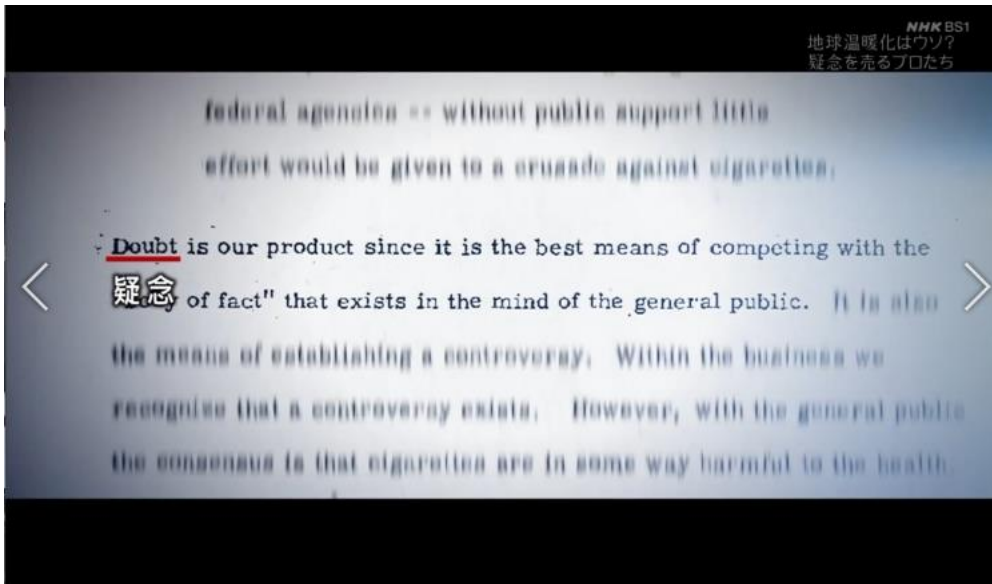
(ナレーター)

20 世紀半ば、科学者たちが喫煙の有害性を指摘すると、たばこ業界は猛然と抵抗。その作戦が内部文書に書かれています。

「我々は疑念を売り込む。疑念は人々の意識に刻まれた、事実に対抗する最強の武器だ。」

業界の抵抗によって、たばこの規制は何十年も遅れました。

その戦略が、気候変動の論争に受け継がれています。



(ナオミ・オレスケス)

彼らの目的は、私たちに判断を迷わせること。判断がつかなければ、政府が規制するのはやりすぎということになりますから。

それが彼らの戦略です。



(ナレーター)

規制の妨害に動いたのは、どんな人物だったのか。

実は、当時、たばこ業界から報酬を得ていた専門家の一部は、気候変動論争でも登場します。

早くから温暖化に異論を唱えていたフレデリック・サイツは、たばこ業界側で研究プロジェクトを率いていました。



(インタビュアー)

当時 タバコ業界は  
健康への影響を否定しました

(フレデリック・サイツ)

信じるかどうかは個人の選択だ

(インタビュアー)

裏に経営判断があったのでは？

(フレデリック・サイツ)

売り上げの維持は必要だ

(インタビュアー)

企業側の責任は？

(フレデリック・サイツ)

責任は喫煙者側にある



(ナレーター)

フレッド・シンガーは受動喫煙の危険性を軽視する報告書を書き、コメンテーターのスティーブ・ミロイはたばこ業界と石油業界の依頼を掛け持ちしていました。



(ナレーター)

マイロン・エベルも、当時、属していた団体で、たばこ業界のために活動していました。

そして、ジェリー・テイラーも、



(ジェリー・テイラー)

私は、受動喫煙の被害への懐疑論を展開していました。

根拠となる疫学的エビデンスが説得力に欠けているってね。



実はこれは、どんなテーマにも使いまわせる、定石パターン  
なんです。

たばこ規制をめぐる議論を振り返ってみれば、気候変動に  
対する懐疑論と非常に似ていることがわかりますよ。

(ナレーター)

そもそも、石油業界は、温暖化についてどの程度知っていた  
のでしょうか。

答えは 1979 年にさかのぼります。





(ナレーター)

エクソンの船がテキサス州の沖で、重要なデータを集めていました。

これは、経営陣へのプレゼンテーション用に撮影された映像です。

調査を担当したエド・ガーヴィー。これが現在の彼です。



(エド・ガーヴィー)

二酸化炭素の増加が地球に及ぼす影響について調べ、経営陣に報告することになっていました。

温暖化の研究に寄与する大事な調査でした。

(ナレーター)

調査が行われたのは40年前、つまり、ジェームズ・ハンセンが温暖化に警鐘を鳴らす、10年近くも前のことです。

エクソンが調査を始めたのは、科学を重視していたからです。気候変動の問題も認識していました。



(ナレーター)

ガーヴィーが集めたデータを、エクソンの科学者たちが分析しました。

(エド・ガーヴィー)

数学や物理学の専門家たちが、二酸化炭素の影響をモデル化する研究を進めていました。CO<sub>2</sub>の増加が気候に影響していると理解していました。

(ナレーター)

エクソンモービルは調査結果を学術誌で公開したと主張しています。

その一方で、『未解決の科学』と題して、気候変動に懐疑的な広告を出しました。

### What was the outcome?

In 2015, environmental activists and class-action lawyers succeeded in securing an investigation of ExxonMobil by then-New York Attorney General Eric Schneiderman, as originally envisioned in the **La Jolla report**. The investigation was widely founded on claims that scientists and researchers from ExxonMobil knew that man-made emissions caused global climate change in the 1970s and 1980s, but that the company kept those findings secret. Contrary to their claims, **ExxonMobil's understanding of climate change** has tracked the scientific consensus on climate change, and its research on the issue has been published in publicly available peer-reviewed journals.

After over three years of investigation, during which ExxonMobil turned over four million pages of documents, the New York Attorney General's office settled on bringing charges against ExxonMobil, not related to what the company knew about climate change, but instead obscure questions around ExxonMobil's economic modeling and accounting practices, under New York's controversial Martin Act statute.

## Unsettled Science

Knowing that weather forecasts are reliable for a few days at best, we should recognize the enormous challenge facing scientists seeking to predict climate change and its impact over the next century. In spite of everyone's desire for clear answers, it is not surprising that fundamental gaps in knowledge leave scientists unable to make reliable predictions about future changes.

A recent report from the National Research Council (NRC) raises important issues, including

Moreover, computer models relied upon by climate scientists predict that lower atmospheric temperatures will rise as fast as or faster than temperatures at the surface. However, only within the last 20 years have reliable global measurements of temperatures in the lower atmosphere been available through the use of satellite technology. These measurements show little if any warming.

Even less is known about the potential positive or negative impacts of climate change. In fact,

(エド・ガーヴィー)

研究部門の社員で、あの広告を支持する人はいなかったでしょう。

私たちの調査で判明した事実とは違いました。

誤解を招く文書、人々をミスリードしようとする広告でした。

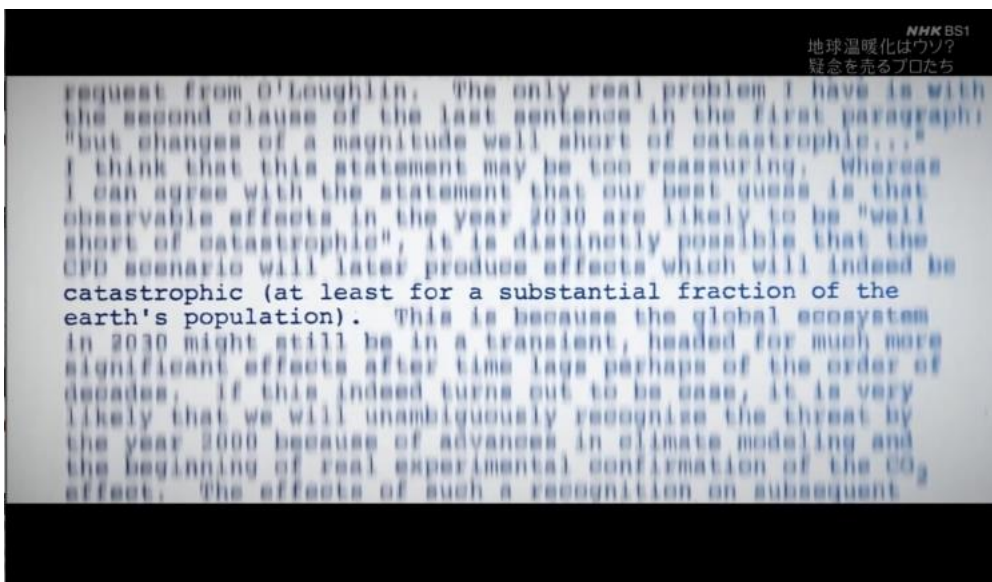
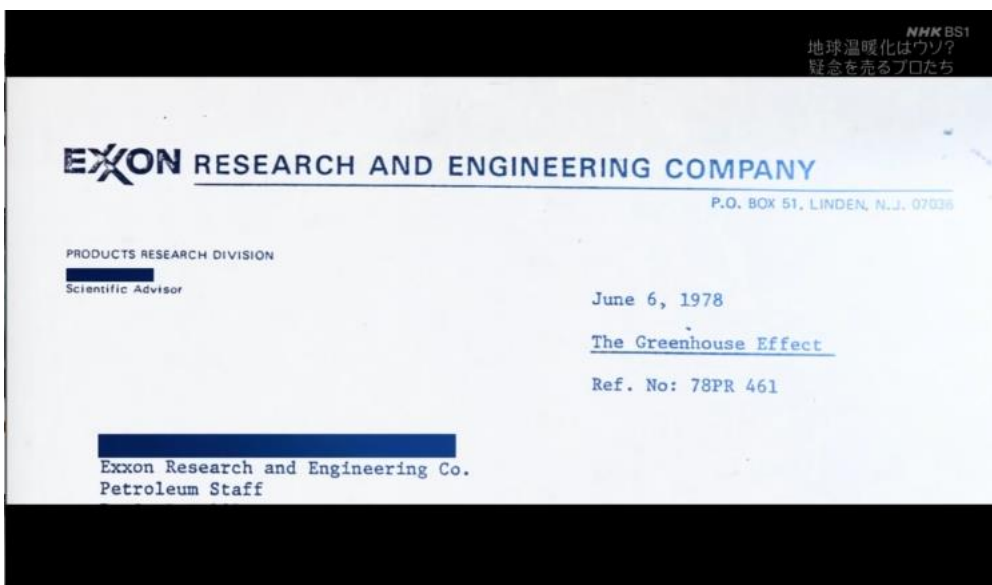
(ナレーター)

エクソンの科学者たちは、社内文書でも、地球温暖化について警告していました。

1978年、経営陣に提出された極秘報告書は、化石燃料の気候への影響は、科学的に認められるとし、その3年後には、研究部門の責任者が、温暖化が、多くの人に壊滅的な被害を及ぼす恐れがある、と述べています。

いまから40年も前のことです。

しかし、エクソンのCEOは、後にこう語りました。





(リー・レイモンド)

自然の変動は

人間の活動とは無関係だ

気候は何百万年もの間

常に変化してきた



(ナレーター)

気候変動について知っていたのは、エクソンだけではありません。

1980年代、シェルの科学者たちも警鐘を鳴らしました。

地球温暖化が認識できるほど進行したら、もう手遅れになっている可能性がある。

それでもシェルは、温暖化に否定的な団体に、何十年も資金を出し続けました。





Report Series HSE 88-001

CONFIDENTIAL

## THE GREENHOUSE EFFECT

There is reasonable scientific agreement that increased levels of greenhouse gases would cause a global warming. However, there is no consensus about the degree of warming and no very good understanding what the specific effects of warming might be. But as long as man continues to release greenhouse gases into the atmosphere, participation in such a global "experiment" is guaranteed. Many scientists believe that a real increase in the global temperature will be detectable towards the end of this century or early next century. In the meanwhile, greater sophistication both in modelling and monitoring will improve the understanding and likely outcomes. However, by the time the global warming becomes detectable it could be too late to take effective countermeasures to reduce the effects or even to stabilise the situation.

The likely time scale of possible change does not necessitate immediate remedial action. However, the potential impacts are sufficiently serious for research to be directed more to the analysis of policy and energy options than to studies of what we will be facing exactly. Anticipation of climatic change is new, preventing undue change is a challenge which requires international cooperation.

(ジェリー・テイラー)

1988年に、NASAのハンセンが議会で、温暖化に警告を  
発したとき、もし、石油業界が「異論はない、彼は正しい」  
と言っていたら、温暖化への懐疑論は封じ込められたはず  
です。

当事者のエクソンが認めるなら、誰も懐疑論なんか聞かな  
いでしょう。

(エド・ガーヴィー)

一人の人間として、父親として、祖父として、子どもたちの  
未来が心配でたまりません。

地球規模の変動は、簡単に方向転換できません。

これが川や湖なら、きれいにすることは可能でしょう。つま  
り、リセットできるんです。

でも、地球にリセットボタンはありません。そんなものはな  
い。

ゾッとします。

地球はリセットできないのです。



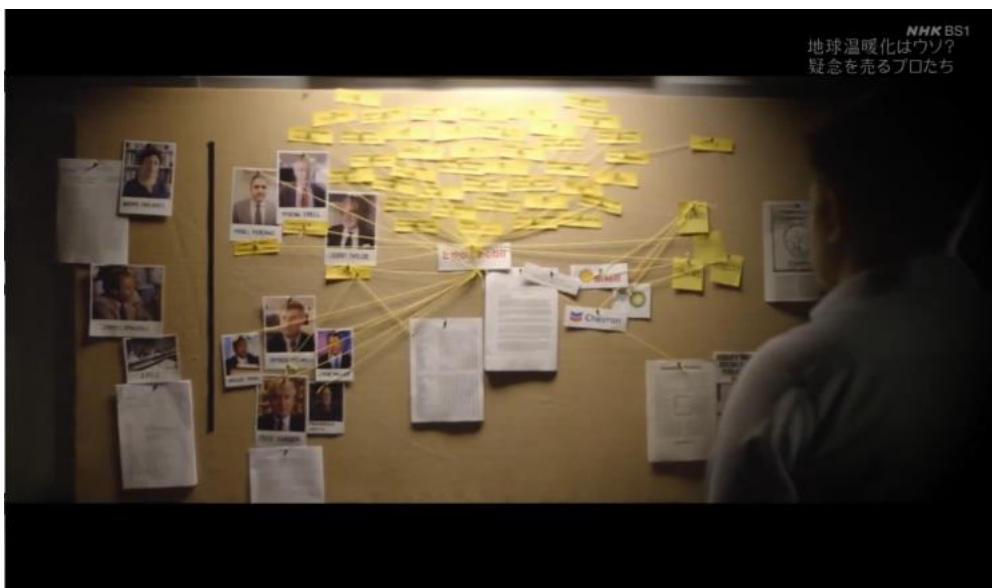
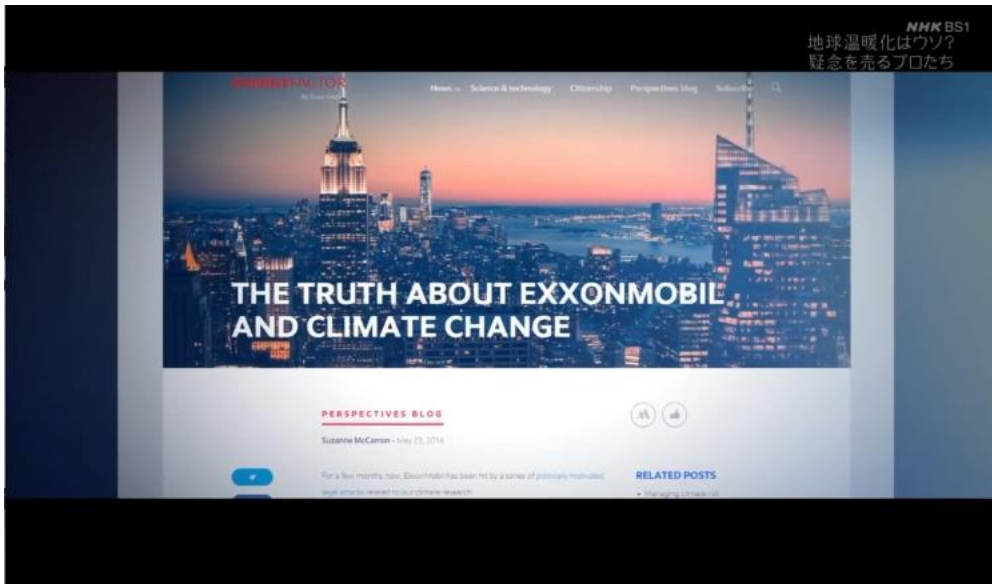
(ナレーター)

エクソンモービルは、過去の調査データを伏せたことを否定。

気候変動は現実的なリスクであり、調査結果は学術誌で発表されているとしています。

なぜ、懐疑論者に金を払って、科学を否定するようなキャンペーンを行ったのか、という質問に答えはなく、インタビューも拒否されました。

アメリカ石油協会にも取材を試みましたが、協会は回答せず。インタビューにも応じませんでした。



(字幕)

シェルは 加盟団体について温暖化対応の方針を再評価  
1つの団体から脱退した

(字幕)

米国石油協会には残留するが  
すべての方向性が一致してはいないと強調した

シェルは 加盟団体について温暖化対応の方針を再評価  
1つの団体から脱退した

米国石油協会には残留するが  
すべての方向性が一致してはいないと強調した

(ナレーター)

エクソンモービル、アメリカ石油協会は、環境にやさしい技術の推進に努めていると主張。

(字幕)

エクソンモービルは 2000 年以降  
低排出技術に 100 億ドルを投じたと述べている

エクソンモービルは 2000年以降  
低排出技術に100億ドルを投じたと述べている

(ナレーター)

さらに、コマーシャルでは・・・

(映像)

植物（プラント）のように工場（プラント）も

二酸化炭素を吸収できたら・・・

炭素排出量を大幅に削減

ともに より良い明日を

闇の先に光

石油を超えていこう



プラント プラント  
植物のように工場も  
二酸化炭素を吸収できたら...



ともに より良い明日を



闇の先に光  
石油を超えていこう





(ナオミ・オレスケス)

結局、懐疑論者たちが勝ったのでしょ

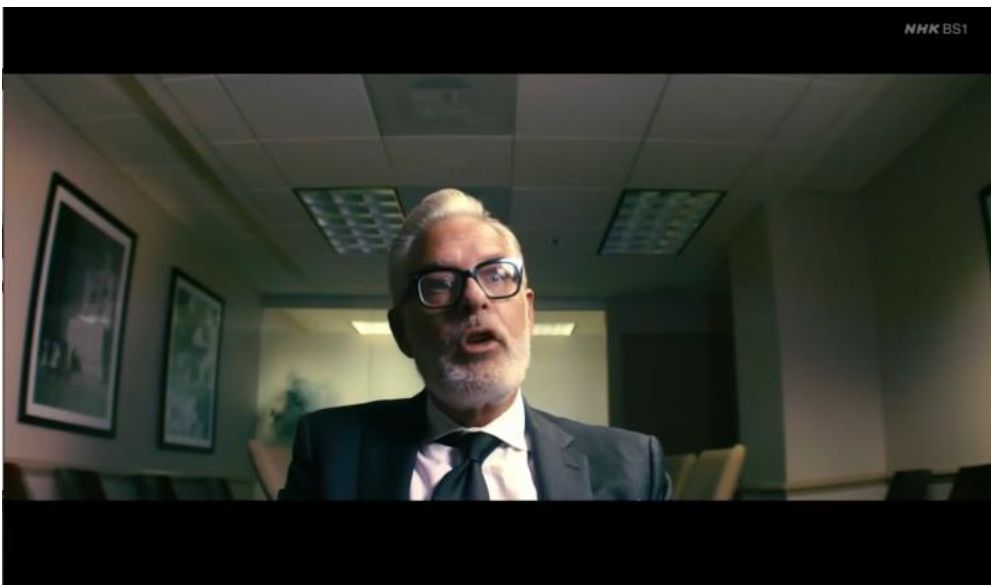
う。  
1988年のハンセンの発言の後、彼らのキャンペーンが展開されなかったら、政治は環境を重視する方向に舵を切っていたはず





(ジェリー・テイラー)

懐疑論者たちの活動によって、もっと早く実現するはずだった気候変動対策が数十年、遅れることになりました。



(ナオミ・オレスケス)

いまごろ、世界のエネルギーの大半が、再生可能エネルギーに置き換わっていたかもしれない。30年あれば、それだけの技術革新が起こせたでしょう。

政治もひどい状態です。むしろ、その方が深刻な問題かもし  
れません。

嘘の情報をまき散らす連中のせいで、アメリカ大統領が、気  
候変動がでっち上げだ、と平気で言うのですから。



(字幕)

トランプ氏が 政権移行チームに  
温暖化否定論者を登用



トランプ氏が 政権移行チームに  
温暖化否定論者を登用



(マイロン・エベル)

トランプ氏が大統領に当選したとき、環境保護局の再編を担当しました。

私がリーダーでした。

(字幕)

トランプ政権下で温暖化対策は後退した

米国石油協会は一層の規制緩和を要求

シェル エクソンモービル BP シェブロンなどは

引き続き協会に資金を提供している

トランプ政権下で温暖化対策は後退した

米国石油協会は一層の規制緩和を要求

シェル エクソンモービル BP シェブロンなどは  
引き続き協会に資金を提供している

## 地球温暖化はウソ?

世論動かす“プロ”の暗躍

THE CAMPAIGN AGAINST THE CLIMATE

BS世界の  
ドキュメンタリー

終  
NHK

